

日本学術会議
地域研究委員会
文化人類学の学知を活用した人材育成及び社会連携分科会
(第 26 期・第 6 回) 議事録

日時：2026 年 3 月 9 日(月) 13:00～15:00

形式：日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催

出席者：伊藤、石井、小川、慶田、嶋田、高野、中空、俵木、平田、三尾

話題提供者：遠藤薫（日本学術会議連携会員）、中村高康（日本学術会議連携会員）

オブザーバー：有田伸（日本学術会議第一部会員）

欠席者：綾部、上杉、香室、木村、小長谷、曾我、竹沢、中谷、速水

議題：

(1) 前回議事要旨の確認

(2) 社会学における社会連携・アウトリーチの取り組みについて

社会学委員会の「課題解決のための社会理論分科会」より、遠藤薫氏および中村高康氏を招聘し、社会学における社会連携・アウトリーチの取り組みに関する話題提供と意見交換を行った。

・遠藤 薫 氏（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

「なぜアウトリーチなのか？ 学術／社会学の立場から」と題して、アウトリーチ推進の多層的構造や社会学特有の困難、およびメタレベルでの社会変容を踏まえたアウトリーチの必要性について解説された。

・中村 高康 氏（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教授）

「教育社会学と社会連携」と題して、教育社会学の社会貢献の 4 類型や、社会批判活動・政府連携等の具体的な実践事例を通じた研究者の情報発信の課題等について紹介された。

遠藤氏、中村氏による報告に続き、出席者との質疑応答および、文化人類学と社会学の共通課題等に関する全体ディスカッションが行われた。

(3) 今後の活動について

今後の日程および議題については、メーリングリストにて調整・決定する。